

令和 7 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立友渕小学校

令和 7 年 1 1 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 友渕小学校は大阪市一の大規模校であり、4月1日現在の児童数は1420名である。大人数の子どもたちが安全に安心して学校生活を送ることができる環境を整備することは毎年考えていかなければならない。
- 令和3年度のいじめ認知件数は132件、解消率は78%であった。解消率をさらに高めるためにも一人ひとりが大切にされた学級集団づくりを進める必要がある。
- 学力調査の結果は例年全国平均を上回っている。しかしながら近年上位層や中間層と下位層との差が開いていく傾向にある。下位層の底上げが課題である。
- 児童質問紙による調査では、学力が比較的安定しているのに対し、例年自己肯定観は高くはないことが課題として挙げられる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定に回答する児童の割合を95%以上で維持する。
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を84%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.0ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・学習者用端末を活用した家庭学習を週3回実施する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員の割合を96.6%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定に回答する児童の割合を95%以上で維持する。
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を84%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の56%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等のICT活用が適さない日数を除く〕
- ・学習者用端末を活用した学習を行った上で、学習者用端末を活用した家庭学習を1年生は2学期より、2～6年生は5月より週2回以上実施し、学級担任に向けた校内アンケートにおける「学習者用端末を活用した家庭学習を週2回以上実施できていますか」の項目について、肯定的に答える割合を70%以上にする。（令和6年度 55.9%）
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を96.6%以上にする。（令和6年度 96.5%）
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（令和6年度 79%）

大阪市立友渕小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95.5%以上にする。(令和 6 年度 95%) ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。(令和 6 年度 78.9%) ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合の 84%以上にする。(令和 6 年度 83%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</div> <div>○自分や友だちを大切にしたり、仲間と助け合ったりする活動を行う。 ・学校の決まりやルールを守ること、自分や友だちが安全に過ごすことができることを、年間を通して各学級・学年で指導できるようにする。</div> <div>-----</div> <div>指標</div> <div>・学期に 1 回以上、「いじめ」と向き合う時間を設け、自分や友だちを大切にしたり、仲間と助け合ったりする活動を行う。 ・また、学校の決まりやルールを守っているかどうか振り返る時間を学期末に 1 回以上設ける。</div>		B
<div>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</div> <div>○道徳科の授業に限らず、あらゆる教育活動を通して、自己肯定感を高められるよう指導する。</div> <div>-----</div> <div>指標</div> <div>・各学年、学期に 1 回以上は自己肯定感を高められる教材を選定・活用したり、学習活動を工夫したりして指導する。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</div> <div>学期に1回以上、全ての学年・学級であらゆる教育活動・教科において「いじめ」と向き合う時間を設けたり、友だちと協力して活動する場面を設けたりできている。そうすることで、自分や友だちを大切にしたり、仲間と助け合ったりしようとする心情が育ってきている。 また学期に 1 回以上学校の決まりやルールを守っているかどうか振り返る時間を設定して振り返る時間を全ての学年・学級で設けることが」できている。その結果、校内調査「学校のきまりやルールを守って安全に過ごすことができますか」の項目に、肯定的に回答する児童の割合は95.5%で目標を維持できている。(昨年度95%、今年度 1 学期末 9</div>		

5.8%)

取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】

教科や帰りの会、学級での独自の取り組みなど、あらゆる教育活動を通して学期に1回以上は教材を選定・活用したり、自分のいいところや友だちのいいところなどを見つけて伝え合ったりするなどの自己肯定感を高められるような指導をしている。

その指導により、校内調査の「自分には良いところがあると思いますか」の項目に、肯定的に回答する児童の割合が昨年度の割合を維持できている。(昨年度83%、今年度1学期末83.1%)

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】

大阪市立友渕小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を52%以上にする。(令和6年度 51%) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。(令和6年度 74%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○年間を通してすべての教科・領域の授業において深い学びを重視した「自分ごとの学び」の授業への転換を図る。 ・学習を見通し自ら課題解決に向けて取り組もうとするための授業展開を工夫する。 ・深い学びに向けて学び合う学習活動を工夫する。 ・学習成果をふり返り、次の学習に生かすための工夫を図る。	B
指標 ・学校アンケートにおける「授業で学習した後に、もっと知りたいことや、生活の中で活用できることを思い浮かべることはありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ・同一母集団における小学校学力経年調査において、平均正答率の大阪市標準化得点を、いずれの学年や教科においても103を目標にし、どの学級も100以上を維持する。	
取組内容②【基本的な方向5 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○自分の体と向き合い、健康的な体づくりへの意識を高める。 ・自己の能力にあった体の使い方を楽しく身に着けるような工夫をする。 (小さな変化(達成・成長)がわかる目標を設定するなど) ・「保健だより」「給食だより」「健康生活振り返り週間」や保健指導などを通して、健康に対する興味・関心をもたせ、食事・運動・睡眠の大切さについて理解し、自身の生活に取り入れようとする態度を養う。	B
指標 ・体育の時間の毎5分間を利用して、習慣的にストレッチや体をほぐす運動を行う。また、運動場の固定遊具やなわとび運動などの方法を提示する。 ・月1回発行の「保健だより」「給食だより」を各学級で活用(読みあげ・掲示)し、健康的な生活や食生活についての意識を高めたり、「健康生活振り返り週間」を行い健康的な生活を送ることができているか振り返ったりする。また、それらの取り組みを通じて家庭との連携や啓発を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】

小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を５２％以上にするに対して、同じ項目の学校アンケート（中間）では５１％に留まっている。

（学年別：１年…６３％・２年…４９％・３年…５０％・４年…４８％・５年…５５％・６年…５４％）

本年度の指標の学校アンケートにおいては、「授業で学習した後に、もっと知りたいことや、生活の中で活用できることを思い浮かべることはありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は８４％であり、目標としていた７５％を大きく上回っている。

（学年別：１年…８４％、２年…７９％、３年…８７％、４年…８６％、５年…８２％、６年…７９％）

以上の結果から、児童の発達段階や学年の取り組みによって差は見られるが、現状を踏まえて、教師がアシストしていくことにより、「自分ごとの学び」への意識がより高まっていくと考えられる。

取組内容②【基本的な方向５ 健康や体力を保持増進する力の育成】

１学期児童アンケート「体を動かすこと（体を使う遊びやダンス、スポーツなど）は楽しいですか」の質問に対する校内全体での最も肯定的な回答は７１％であった。また、４年生は７１％、５年生６９％、６年生６４％と、学年が上がるにつれて割合は低くなっている。

学校アンケート「体育の時間に毎５分間を利用して、習慣的にストレッチや体をほぐす運動を行うことができていますか」の質問に対する肯定的な回答は１００％であった。

固定遊具や縄跳び運動などの方法の提示については、１１月以降の運動委員会の取り組みで呼びかけていく。

学校アンケート「児童の個性差や能力にあった体の使い方を楽しく身に付けさせるために工夫することができていますか。」の質問に対する肯定的な回答は９８％であった。

健康生活振り返り週間「テレビ・ゲーム・スマホなどは、寝る一時間前までにやめた。（または、しなかった）」の項目に関して、５月、９月ともに達成率は６５．２％であるため、児童への啓発が必要である。

保健への意識は高めあっているが、食への意識は低下している。残食が増え、給食のルールがおろそかになっている。啓発への意識を高める意味も込めて、給食だよりを活用するようしていく。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】

取組内容②【基本的な方向５ 健康や体力を保持増進する力の育成】

大阪市立友渕小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 56% 以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等の ICT 活用が適さない日数を除く〕(令和 6 年度 55.9%) ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 96.6% 以上にする。(令和 6 年度 96.5%) ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。(令和 6 年度 79%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 ○学習者用端末の活用により、児童の実態把握や学習内容の習熟を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフノート「心の天気」の入力 ・児童によるデジタルドリル「ナビマ」の実施 ○児童の情報活用能力育成に向けた取り組みを進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標一覧の作成、達成に向けた学習者用端末を用いた取り組み ・大阪市 ICT チェックリストを基にした校内アンケートにより、児童の情報活用能力について実態を把握する 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の 8 割以上が学習端末を活用した日数が、年間授業日の 56% 以上になるようにする。〔ただし、事務局が定める学校行事等の ICT 活用が適さない日数を除く〕 ・年に 2 度の校内アンケートを実施する。 	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○校内でクラウドアプリを活用した校務を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を非同期的に共同作成・編集することで会議時間を削減する。 ・校務における情報の収集・分析に ICT 活用を進める。 ・授業に使用する教材を整理し、授業準備の時間を削減できるようにする。 	B
指標 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教職員の割合が 90% 以上であり、かつ校内アンケートにおいて、「ICT を活用して、校務を効率的にすすめることができる」の項目に肯定的に回答する教員の割合を 80% 以上にする。	

<p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>○委員会活動やクラウドを活用し、校内全体で本に親しむ活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会による活動 ・高学年を中心に、読書に意欲が持てる活動 <p>○校内での本に親しむ環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に一度の読書タイム ・学級貸し出し ・司書と連携し、本の読み聞かせ等を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的な回答を 80%以上とする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】</p> <p>5月の端末活用状況について、「授業日において、児童の8割以上が学習端末を活用した日数」は年間授業日の73.7%、6、7月は100%であった。</p> <p>9月に実施した校内アンケートにおける「児童の情報活用能力の育成に向けて、学習者用端末を活用した取り組みができていますか。」の項目については「できている」「ある程度できている」と回答した教職員は79%である。また「心の天気」や「ナビマ」の活用についても、80%を超える教職員が活用について肯定的に回答しているため、校内でも活用が進んでいると考えられる。</p> <p>ICTを活用して児童の実態把握や学習内容の習熟を図る取り組みが行われている一方で、「あまりできていない」「できていない」と回答した理由についてアンケート結果から検討を進めたところ、児童の情報活用能力育成を図るために、教職員が「取り組みができていない」の確認や全ての児童に確実に情報活用能力を定着させるために、より具体的な目標を設定することが必要であることが明らかになった。また、校内ネットワークの電波状況や学習者用端末の改善も課題となっている。</p> <p>そのため以下の項目について取り組みを検討、実施を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が情報活用能力の定着を確認するための具体的な指標 ・電波状況の改善に向けた取り組み ・更新された端末を児童が活用するための指導法について <p>取り組み内容②【基本的な方向性 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教職員について、10月までの段階で（イ）時間外勤務時間が1か月に45時間以上を超える教職員は16名であった。今後も時間外勤務について、基準2を満たす教員も昨年度に比べ達成率が増えるような取り組みが必要である。（昨年度同月100%→今年度97.7%）</p> <p>一方で校内アンケートにおいて、「ICTを活用して、校務を効率的にすすめることができる」の項目に「できている」「ある程度できている」と回答する教員の割合は全体の93%であった。これは校務においてアンケートの集計やデータの収集、クラウドへのデータ保管や生成AIを活用している事例が増えているためであると考えられる。しかし一方で「あまりできていない」「できていない」と回答した理由について、操作面での不安感の払拭や活用面での方針を徹底させる必要がある。今後活用するアプリの統一やマニュアル、ルール面の整備を中心に取り組みを進めていくべきと考えられる。また、校内での情報共有を進めていく中でさらに校務や会議を精選し、働き方改革を進めていく。</p>	

取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

昨年度までの小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は79%である。校内80%以上を目標としているため、引き続き委員会活動やクラウドを活用し、校内全体で本に親しむ活動を推進する必要がある。

そのために児童が本に触れる機会を増やし、読書に親しめるようにする。図書委員会活動の読書月間(11月の約1か月間、毎日昼休みに児童が図書室で本に親しむ催し物)やTeamsを活用した児童集会にておすすめの本を全児童に紹介するといった取り組みを今後行う。また、校内での本に親しむ環境を整備するため、週に1回の朝読書タイムの時間確保、学級・学年の本の貸し出し(担任バーコードで50冊貸出可能)、週に1回の図書学習を積極的に行っていく。さらに、教科と連携した並行読書の取り組みを推進するために、教科書で扱った題材やテーマに関連する本を児童が自ら探して読んだり、教科書に出てきた作者の別の作品を読んだりするなど、児童による主体的・積極的な読書活動ができるような取り組みを検討する。

一方で、蔵書冊数が少ないことや準備についても課題が見られるため、引き続き検討・対応が必要である。

次年度への改善点**取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】****取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】**